

令和7年 年頭所感

公益社団法人 日本柔道整復師会 会長 長尾 淳彦



連帯感を持って正しく伝え続ける

新年あけましておめでとうございます。

新たな年の初めを迎え、皆様には健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。

また、昨年、元旦に発災した能登半島地震をはじめとして豪雨や土砂崩れなど全国各地で大きな被害がもたらされました。被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

本会は昨年12月15日に「社団法人設立70周年記念式典並びに祝賀会」を明治記念館で挙行了いたしました。伊吹文明元衆議院議長をはじめとする自由民主党の皆様、日本医師会の皆様、厚生労働省の皆様、柔整関連団体役員の皆様そして47都道府県の会員の皆様総勢400名のご臨席を賜りました。本当にありがとうございました。

昨年のこの「年頭所感」に次の5つの試みを挙げました。

1. ビジョンと目標の策定
2. コミュニケーションの改善
3. 役割と責任の明確化
4. スキルの開発と教育
5. フィードバックと改善の環境の醸成

組織内では、試して成果をあげている部署もたくさんあります。スクラップアンドビルドでチャレンジを続けます。

正しく伝え続けること

私が会長に就任してから言い続けてきた「柔道整復師は何を学び何が出来るのか」「接骨院・整骨院で患者さんにどのようなことをしているのか」「施術所(接骨院・整骨院)外でも国民に貢献出来るものは何なのか」を患者さんである「国民」、支払い側である「保険者」、国、都道府県、市区町村の「行政」、日本医師会をはじめとする「関連団体」、そして、柔道整復師、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師の「仲間」に正しく伝え続けることが必要です。

私たちは黙っていても正しければ最終的には分かってもらえると思いがちです。「正しい」というものは揺ぎ無く存在するというのではなく常にせめぎ合いながら作られていくものと認識すべきです。また、「正しい」と分かってもそれを大切に扱ってくれるかの保証はありません。そうした中で私たちは常に「柔道整復」とは何か?を考え、「柔道整復」を広報し続けていかなければ

ればなりません。

■ 連帯感

現在、就業柔道整復師は8万人、施術所は5万箇所を超えています。この集団を一つの方向に向かうためには、一人ひとりが同じような価値観を共有して、一つの柔道整復文化を創りそれを継承していく努力が必要です。

信頼を持って協調していけば、調和や共通点を見出し相互の関係を友好的に強め、異なる立場や意見も共通の目的や利益を見出すことが出来ます。そして、新たなアイデアや解決策を生み出すことが出来ます。

業界、日整、都道府県社団、地域・支部での共通する明確な価値観を醸成していきたいものです。

国のデジタル化そしてITやIoTの動きがはやいので、業界や組織の戦略や事業そのものを方向転換・修正しなければならないこともあります。すべきタイミングを見誤ると業界も組織も大きな損失を被ります。そして、組織の連帯感や一体感がないとその動きに対応出来なくなります。

事業の中核的存在がいなくなっても継続できる組織でなくてはなりません。そのためには、連帯感の醸成と共通の価値観の認識が必要です。

■ フューチャーデザイン

昨年12月15日の本会「社団法人設立70周年記念式典」でも申し上げましたが先人たちの柔道整復存続のための血の滲む努力に対する「過去への感謝とその検証」、現状の柔道整復師業界の課題の解決に対する「検証分析とその解決法の実行」、30年後50年後の将来世代柔道整復師が人口問題や地域格差、地球温暖化、社会保障制度の変更などを見

据えて、現在の私たちにこれに着手してほしかった、これを解決しておいてほしかった、という視点から計画決定を行うことも大切です。柔道整復師業界の持続可能性を高める計画は将来世代が活動しやすい環境を考えて策定していくべきと考えます。柔道整復師業界の資産毀損が将来世代の時代に予見されるならそれを防止する行動を今行うことは現時点の資産価値を維持することになります。将来世代のための行動は現在世代の持つ資産を検証して維持することと理解して計画を進めていかなければなりません。

ヒントや気づきは常に「現場」にあります。患者さんである国民の皆様の「柔道整復」への理解と支持があつての業界です。常に現場の声を大事にします。

これまでご支援いただいたすべての皆様に深甚なる敬意と感謝の意を表します。

新しい年が皆様おひとりおひとりにとって充実した幸多き年となりますようにご祈念申し上げ、年頭に当たってのご挨拶といたします。